

営農サポートセンター内芝生公園内でのパークゴルフ実施にむけて要望書を提出

■富山市営農サポートセンターが所在する月岡校区ならびにその隣接3校区（蟻川、熊野、太田）における平成30年11月の高齢化率は30.5%（富山市平均29.1%）となっている。今後、更に高齢化が進展する中、スポーツを通して健康づくりに取り組むことは地域コミュニティの活性化にも大きく寄与する。以上のことから、営農サポートセンター内の芝生公園を南部地域残体の市民の健康増進のためパークゴルフ場として使用させて頂きたく要望する。



平成30年12月25日
森市長に要望書を提出しました



しゃがわ 智也 市政報告

地方創生に 全力投球!

vol. 7
平成31年
1月発行

謹んで新春のお慶びを申し上げます。
皆様、お元気で新年をお迎えのことと存じます。今年は「亥」年です。富山市の中山間地では大いに嫌われている存在ではありますが、子孫繁栄の動物であるとか、無病息災の象徴やお守りともいわれているそうです。皆様の「無病息災」願って、任期の折り返しとなる今年一年を、冷静な目線を保ちながら「猪突猛進」で頑張っ参ります。今年も幸多い年でありますようお祈り申し上げます。

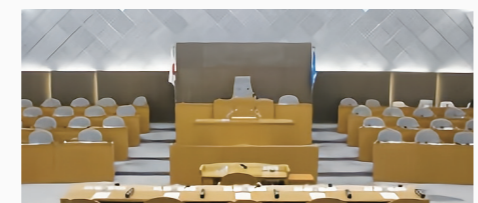


》平成30年12月定例会の概要

■27億8,748万余円の補正予算等を可決

予算案件	
○30年度富山市一般会計補正予算補正額	8億7,631万3千円
・8～9月の豪雨被害による農地等復旧事業	1億5,190万円
・県施行街路事業負担金	9,695万3千円
・放課後デイサービス事業扶助費	9,600万円
・こども医療費助成金等	3億1,814万6千円
○30年度富山市特別会計補正予算（3会計）補正額	19億916万8千円
・第2期呉羽南部企業団地造成工事	19億1,800万円
○30年度富山市企業会計補正予算（2会計）補正額	200万円
条例案件	
○富山市病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例制定の件 ほか	

平成30年12月富山市議会定例会は、12月3日から21日まで19日間の会期で開かれました。平成30年度補正予算案件、条例案件、契約案件、意見書等について審議し、合わせて31議案が原案のとおり可決しました。また継続審議となっていた平成29年度一般会計、特別会計、企業会計の決算認定等については、いずれも認定、原案可決とされました。



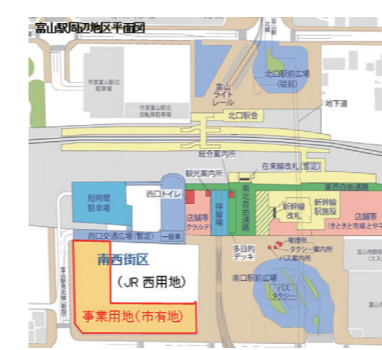
富山駅南西街区市有地活用事業

富山駅南西街区に中心市街地の活性化や賑わい創出及び観光振興に寄与する施設を導入するにあたり、公募プロポーザル方式により民間開発事業者を募集していたが、この度、JR西日本不動産開発(株)に決定した。

事業者名 JR西日本不動産開発(株) 構成 富山ターミナルビル(株) (株)ジェイアール西日本ホテル開発



【事業概要】 事業用地 市有地面積 約4,208㎡ 貸付形態 30年間の事業用定期借地 要件等 ① 駅周辺の事業者等との連携・協力を図ることができる施設であること ② 駅周辺の治安及び防犯機能を維持するため、駅前交番を導入すること	【施設概要】市有地 約4,208㎡に、約3,822㎡を加えた一体利用		
	民間施設 (2022年春開業予定) 敷地面積 約7,930㎡ (鉄骨造り12階建て) 床面積 約40,000㎡	商業施設(1～4F) 物販・飲食店 ほか 約60店	ホテル(4～12F) 客室190室 温泉施設 飲食店
公共施設(交番)	敷地面積 約100㎡ (新幹線高架下)	県警が事業者から直接借地し、自ら建設	



Point
平成31年度末を目途に路面電車南北接続事業が終了し、南北の一体的なまちづくりが一定のゴールを迎え、人の流れは大きく変わると市長が明言しています。いわゆる、『串』の部分が南北で繋がることによって、総合計画が示す将来都市像に大きく前進するもので、大いに期待するものでありますが、富山駅構内の整備は今後も続きます。富山駅の更なる賑わい創出が求められるものではありますが、あわせてLRTや他の交通機関とのアクセスが一層スムーズにできる利便性の高い駅の整備が求められるものです。

市内電車上滝線乗入れ実現可能性調査検討について

富山地铁本線 不二越・上滝線は、南部地域の大切な公共交通のひとつです。現在、技術的な課題や採算性などについて検討が続けられていますが、改めて、我々にとって大切な鉄路線であることを認識し、市内電車の乗入れの議論にあわせて、今一度、**南部の住民全体で利用促進に努め、上滝線を守っていきましょう。**

年度	事業費(円)	概要・検討課題等
27年	12,096,000	電圧・7車両幅員、ホームの高さ等の技術課題の抽出。沿線住民の意向調査に関する検討
28年	9,990,000	技術課題に関する検討。沿線住民、上滝線利用者の意向に関する検討。採算性など
29年	15,238,800	交通事業者や車両メーカーへのヒアリング。路面電車乗入れによる運行経費の試算など
30年	5,983,200	施設整備費及び運行経費に関する試算。既存鉄道線の利用底上げ施策に関する検討
31年	協議中	検討内容のとりまとめ。乗入れ実現に向けた望ましい事業手法の検討など



豪雨災害復旧工事【補正予算額 131,900千円】

平成30年8月15日から8月17日及び平成30年8月28日から9月1日、平成30年9月7日から9月11日にかけての豪雨により被災した農業用施設や農地を復旧する。



事業	事業箇所	箇所数
農業用施設 災害復旧事業	大山地域	1箇所
	八尾地域	1箇所
	婦中地域	1箇所
	山田地域	4箇所
農地災害 復旧事業	富山地域	1箇所
	八尾地域	1箇所
	婦中地域	11箇所
	山田地域	20箇所
	細入地域	1箇所

平成31年富山市消防出初式

平成31年消防出初式が1月6日に開催され、消防職員、消防団員が一堂に会し、防災・減災に対する意気込みを市民に披露し、市民の防災意識の高揚を図り、安全で安心なまちづくりの達成を目指すものです。平成30年の蟻川地域での火災発生件数は0件であり、昨年同様無火災を更新中です。引き続き、身の周りの火の取り扱いには十分ご注意願います。



■平成31年 消防出初式



■蟻川分団 出初式後に撮影



1. 地域生活拠点の整備について

Q1 地域生活拠点のあり方について

富山駅の南北接続が実現し、人の流れが変わる今後について地域生活拠点のあり方をどのように考えるか。

A 地域の歴史的なつながりや一体性を考慮し、富山市内に13の拠点を配置している。各拠点には住民の日常生活に必要な、商業、医療、金融などの都市機能の維持・集積による居住誘導を図っている。今後は公共交通、予防医療、生涯スポーツ、賑わいづくりなど施策展開によって、分野横断的な『歩きたくなるまちづくり』を推進し、地域コミュニティの活性化などにより市民が暮らしの豊かさを実感できる地域生活拠点の形成を目指していきたい。

富山市が目指す「お団子と串」の都市構造

串：一定以上のサービス水準の公共交通
お団子：串で結ばれた徒歩圏
都心部ではない全体的に行うコンパクトなまちづくり



Q2-1 商業施設の誘導について

今年度、『都市機能立地促進事業』を創設し、大山、和合、山田、細入地域に商業施設の誘導を行っているが、成果があがっていない。今後の対応についてどのように考えているのか。

A 改めて、複数の関係業者にヒヤリングを実施し、課題を分析するとともに、制度の拡充についても検討していく。

Q2-2 課題の分析も重要だが、その地域に市場価値がなければ民間事業者の参入はありえない。補助事業の拡充に加えて、各地域生活拠点の駅舎改修やバリアフリー化、パーク&ライドなどの整備により拠点性を高めることを進めるべきと考えるがどうか。改めて周知すべきではないか。

A 拠点となる駅舎の建て替えや機能強化は地域の拠点性を高める上で重要なことと認識している。活性化計画に基づいて、鉄道事業者に働きかけてまいりたい。

Q3 新たな拠点について（政調会提案）

稲荷町は商業、医療、文教などの日常生活に必要な機能をすでに有し、且つ広大な都市公園と稲荷町駅を持ち合わせている。『歩いて暮らせるまちづくり』として提案するが富山市はどう見ているか。

A 不二越・上滝線の交通結節地となる稲荷町駅やスポーツクラブなどを有する商業施設、稲荷公園が整備され、駅を拠点とする『歩いて暮らせるまちづくり』の環境が整った地区であると考えている。富山市として、これらの資源を生かした賑わいや魅力を創出する活動に対して支援要請があれば適切な支援を検討してまいりたい。



■環水公園のスターバックスコービー

Q4 民間活力を活かした稲荷公園の利活用について

都市公園法改正によって、民間事業者によるパークPFI事業の実施も可能になり、保育園やカフェや体育施設等の設置も可能になった。賑わい創出の観点からも、民間活力を活かした稲荷公園の利活用を検討できないか。

A 公園管理に係る財政負担が軽減されるとともに民間の創意工夫による公園の魅力向上につながることが期待されるこの制度について、稲荷公園での活用の可能性も含め、今後、事業者等から提案や相談があれば適切に対応したい。

Point

稲荷公園は、市役所敷地の約10倍（13.2ha）を有する広大な都市公園であることから、管理には多大な財政負担を伴っています。

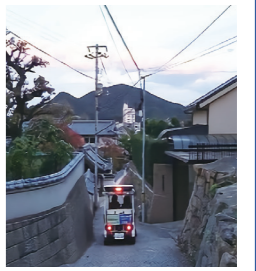
Q5 公共交通の補完事業について

国交省と環境省の合同事業である『グリーンスロウモビリティ』を導入し、地域ボランティアの方々に活用することによって、地域の新たな交通手段としてなり得るのではないかと。

A 普通免許で運転可能で、時速20km未満の低速で走行することから事故のリスクも低く、狭い道路も走行可能であり、今後、ボランティア輸送の車両として考えられる。一方で、運転手や運行経費の確保、低速走行による周辺交通への影響や積雪時の課題が考えられる。今後は、EVバス等の導入調査に加えて当該車両についても導入可能性を調査する。

Point

地域生活拠点や拠点以外に点在する郊外や集落部においては生活に必要な施設もなく大変不便な状況で、今後高齢化が進展する中、課題は更に深刻化していきます。富山市は自主運行バスの支援や市営コミュニティバスの運行を通して公共交通を補完しておりますが、必要最低限の運行であるがゆえに、必ずしも外出が容易にできる状況ではない。こうした中、上の写真のような『グリーンスロウモビリティ』は国の補助もあり、実用性も高いと思われます。富山市の答弁の通り多くの課題もありますが、様々な視点から、地域の隅々まで行き渡る公共交通を補完する事業を考えていきたいと思っております。



2. 富山市スポーツ施設の管理運営と活用について

市民が安全・安心・快適にスポーツを楽しむためには、スポーツ施設が適正に維持・管理されることが大切です。また、市民のライフサイクルにあわせて活用することによって、より多くの市民の健康増進に寄与するものです。

Q6 富山市総合体育館について

富山市総合体育館をコンセッション方式によって営業権を売却する予定としているが、その効果をどのように考えているか。

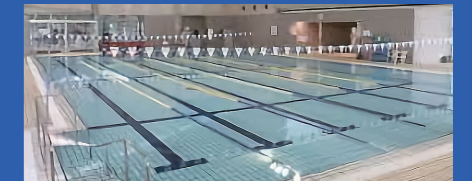
》コンセッション方式とは？
施設の所有権を市などの公共団体が有したまま施設の運営権を民間に設定するもの



A 近年、スポーツイベント以外の多目的な利用が増加し、更なる利活用の可能性があることからコンセッション方式を検討している。民間事業者による新たなイベントの誘致や賑わい創出のほか財政負担軽減に期待している。

Q7 富山市民プールについて

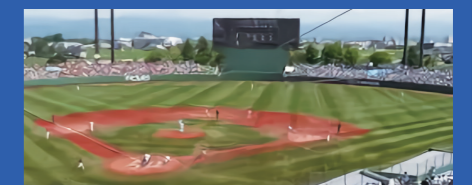
富山市民プールは、平成11年に移転新築し、城東公園と一体の施設として多くの市民に親しまれている。近年、多様なライフスタイルを選択できることや、高齢者の健康志向の高まりから早朝利用など柔軟な利用を望む声があるが検討できないか。



A 費用対効果、民間事業者への影響を考慮したうえで、利用者ニーズや他都市の状況を調査しながら研究していきたい。まずは、アンケートの実施によってニーズを把握するところから始めたい。

Q8 富山市民球場について

市制100年の記念事業のひとつとして建設された市民球場は、建設当時、日本海側随一の設備を誇る球場であったが、建設から26年が経過し老朽化が顕著にみられる。現状の認識と今後の対応についてどのように考えているか。



A スコアボード等の経年劣化や躯体の雨漏りも発生し老朽化がかなり進んでいると認識している。40件の改修を見込むが緊急度の高いものから改修を行う。スポーツ施設の長寿命化計画を策定するため基礎調査を実施する。

Point

新たな施設等を建設することを求める前に、既存の施設を最大限に利活用することを考えることが重要です。